


## 2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 二島小学校】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	1. 5・6年生(86名) 2. 4年生(44名) 3. 全校児童(259名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 教科名(学級活動 総合的な学習の時間 体育等)
4 目標 (ねらい)	1. 日常よりホスピタリティーを大切にしながら接客をしている講師より講演をしていただき、他者へのおもてなしの心を学ぶことを通じて、対人関係の向上、コミュニケーション能力の向上を図る。 2. 肢体不自由や視覚障害のある方の生活する苦勞や工夫を知り、体験を通して考え、障害をもった方たちと共生する社会について考える。また、障害者スポーツの体験を通して、障害者に対する理解促進につなげる。 3. 運動の日常化を図る場の設定をすることで、スポーツに親しみ楽しむ心を育成する。
5 取組内容	<p>【1. おもてなし講座 令和2年12月24日(木曜日)】 スターフライヤーが実施しているおもてなし講座に申し込み、本校の学校教育目標である「自分も人を大切にする」心の育成をテーマに講演をしていただいた。</p>  <p style="text-align: right;">講演の様子</p> <p>プロフェッショナルとして現場で実践しているホスピタリティーの精神に触れた児童は感動し、自己の学校生活における問題解決方法について真剣に質問をして今後の生活に生かそうとしていた。また、参加の態度についてお褒めのお言葉をいただいたことで、自信となり、自己肯定感が高まった。</p>

【2. 外部人材を活用した障害者の生活や障害者スポーツへの理解 令和2年10月30日（金曜日）】

障害者支援施設ちづる園の職員の方々をお招きし、車椅子の利用体験やアイマスクを装着した上での歩行の体験を行った。またパラリンピックの競技である「ボッチャ」の体験も行った。



車椅子体験の様子



ボッチャの活動の様子

【3. 運動の日常化を目指した取組】

本校の体育主任が、体育科経営方針の中で「運動の日常化」を重点目標に設定し、自ら担任している学級で実践検証を行ってきた。そのような中で、本年度赴任した校務員がものづくりを得意としていて、意気投合し、児童が日常で運動に親しむことができる用具づくりを進めた。



跳ぶ運動のための用具



ボールを使った的当ての場

6 主な成果

- 外部講師による専門性や魅力に出会わせることで、児童が心を開き、主体的・対話的学びの中で自己の生き方について考えることができた。【取組1】
- 車椅子体験やボッチャの体験により、日常の障害者の思いやパラリンピック競技の魅力を実感することができた。【取組2】
- 運動の日常化を目指す取組を通して、体を動かすことのよさや励まし合い、認め合う機会をもつことができた。【取組3】

7 実践において工夫した点（事業の特色）

- 外部講師（スターフライヤー職員）によるおもてなし講座では、講座の趣旨や内容と本校からの要望について事前にすり合わせを行うことで、児童の実態に応じた実践ができた。【取組1】
- 外部講師（ちづる園）による車椅子体験やボッチャの体験では、事前に話し合いによって新型コロナウイルス対策を徹底したことにより、安全・安心に授業を行うことができた。【取組2】
- 運動の日常化の取組においては、体育主任と校務員の連携を十分に図ることで、ニーズに合った場づくりができた。さらに、活用の状況を日常の会話で検証する職員間の人間関係づくりも実現した。【取組3】

<p>8 主な課題等</p>	<p>新型コロナウイルスの影響もあり、本年度はオリンピックやパラリンピックへの直接的な関心を高めるまでには至らなかった。いよいよ令和3年度は、オリンピック・パラリンピックが行われる予定である。本年度まで実践してきたことを基盤にして、オリンピックそのものの意義を学ぶことを通して児童がスポーツの楽しさやすばらしさを実感できるよう取り組んでいきたい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>本年度の事業については、来年度も充実や発展を目指していく。また、昨年度から検討している本校出身のアスリートとの交流については、状況が許されればぜひ実現させたい。</p> <p>そして来年度こそ、児童が、いよいよ開催されるオリンピックやパラリンピックにわくわくしながら関わり、その思い出を心に刻んでさらなる成長をしてほしいと願っている。</p>